

お母さんへ

私はお母さんと違っていて、いつもどこか冷静で、その分、周りに元気があって合わせたこともありました。他人の目線が気になったり自信を失う時もありました。

でも、お母さんを見ていると そんな不安は消えていきます。

中学生のころ、保護者会にとても派手なハイブランドの洋服を着て来たことを思い出します。他人が何と言おうと、お母さんは気にしませんでした。お母さんは常に、自分らしく生きているんです。

弟が小さい頃、学校でいたがらして怒られた時も、学業よりスポーツに興味を示した時も、「いいじゃない」と笑顔で聞いている姿が印象的でした。

ある大雪の日には、とんでもない車で来た車をスキー場に連れて行ってくれたことを思い出します。車のタイヤは普通の半分くらいしかなくて、夜だからとても怖かったこと、今でも覚えています。でもスキー場に着いた時のお母さんはとてもからかってくれました。

私は、結婚する事が親にとっての幸せだと思い込んでいましたが、それよりも自分の心に従い、本当にやりたいことを思い通りにやり遂げることが大切だということも教えてくれたのもお母さんです。

ここまで私が自信を持って生きてこられたのは、自由でのびのびとしたお母さんの姿を見えたお陰です。

普段はなかなか伝えられないけど、今日は感謝の気持ちを見せたい。いつもありがとう。

Saori.